

2018年(平成30年) 7月20日 金曜日

中部地区の医療機器産業の振興と発展をめざす産学官組織「メディカル・デバイス産業振興協議会」。幹事長を務める筒井宣政(つづい・のぶまさ、東海メディカルプロダクツ会長)氏は同協議会に3千万円を個人で寄付した。これを受けて同協議会は6月28日付で「筒井宣政基金」を創立した。長年、活動に尽力している筒井氏に寄付の狙いや協議会への思いなどについて聞いた。(聞き手・榎田宏行)

# 中部の医療機器産業発展へ

メディカル・デバイス産振協へ3千万円寄贈

筒井 宣政氏(東海メディカルプロダクツ会長)に聞く

「寄付の狙いから。私は『メディカル・デバイス産業振興研究会』(協議会の前身組織で2009年設立)の立ち上げ時から活動を続けてきた。このほど、協議会の理事を退任したタイミングで、皆さまへの感謝の気持ちを込めて寄付をさせていただこうと思っ



「高度なものづくり技術を有する中部は世界に負けない医療機器を造る力がある」と話す筒井会長

## ものづくり技術で多くの救命を

「中部の医療機器産業の発展のために大いに活用してほしい。私は心臓に疾患のあった次女の病

「中部の医療機器産業から当社(東海メディカルプロダクツ)を設立し、『バルーンカテーテル』(医療器具)を開発した。製品を開発から世に送り出すまでには多額の費用が必要になる。寄付を通じて、会員の皆さまを応援したい。当地で生まれ

「協議会は民間企業をはじめ経済団体や大学、行政が参加し、およそ140の会員で構成している。会員は愛知県にとどまらず、静岡県や福井県など幅広い地域から加盟していただけて心強く感じる」

「具体的な決まっていないうえだが、医療に開くことであれはどんな使用道でも構わない。今後、会員の皆さまで話し合ってもらい決めてほしい」

「研究会を含めると協議会の活動は約10年が経過した。世界最先端の医療技術などの有益な情報を協議会へ提供していくことが私の役割だと考える。医療技術の進歩は日に日に速くなっており、先を見据えた開発が大切だ。高度なものづくり技術を有する中部は世界に負けない医療機器を造る力がある。今後とも頑張りたい」